

誤飲の対処法①

6ヶ月から2歳半くらいまでの子どもに多く見られる「誤飲」はタバコが最も多く、医薬品、ビー玉などの小物、洗剤などの順になっています。

それら事故の原因別の応急手当などをおおまかに説明します。「誤飲の対処法②」ではさらに詳しく説明します。



事故の原因となった主な異物(出典:国民生活センター)

商 品	件数	(%)
総 計	2,714	100.0
タバコ	1,061	39.1
医薬品	329	12.1
ビー玉・おはじき等の玩具	155	5.7
洗剤等	126	4.6
コイン	124	4.6
石けん・化粧品等	78	2.9
電池	72	2.7
防虫・殺虫用品	68	2.5
乾燥剤	61	2.2
アクセサリー	42	1.5

2000年度～2004年度(2005年1月末日まで)

たばこ

1本に含まれるニコチンが致死量になります。

【応急手当】

- ・すぐに口の中に残っているたばこをぬぐい取り、はかせる。
- ・消化管内で吸収されるのを防ぐため、水や牛乳は絶対に飲ませてはいけません。
- ・タバコの浸出液を飲んだ場合は、水、お茶、牛乳などを飲ませてはかせる。
- ・急いで医療機関を受診する。



医薬品

風邪薬、睡眠薬、ビタミン剤など最近の薬は甘くて美味しいので、たくさん食べてしまう事故が増えています。

【応急手当】

- ・口の中を調べ、薬が残っていたら指を口の中に入れてぬぐい取る。
- ・水や牛乳を飲ませ、はかせる。
- ・呼吸が苦しそうな時は、薬の空き瓶、散らばっている薬、吐いたものを持って急いで医療機関を受診する。
- ・意識がない時は、飲ませたりはかせたりしないで、保温をし、すぐ救急車を呼ぶ。
薬の空き瓶、散らばっている薬、はいたものを集めて持っていく。



石けん

浴用、化粧用、薬用、洗濯用など色々ありますが、比較的毒性が低い。

【応急手当】

- ・一口程度なら、水や牛乳を飲ませ、しばらく様子を見る。はき気、嘔吐、のどの痛み、口の中のただれなどの症状が出れば、医療機関を受診する。
- ・大量に食べた場合は、できればはかせて、医療機関を受診する。



マニキュア液・マニキュア除光液

身近な化粧品の中で最も毒性が高く、少量でも飲んだり、誤って気管に入れると危険です。又、揮発性のものを吸入しても中毒を起こすことがある。



【応急手当】

- ・はかせてはいけない。
- ・少量でも飲んだ場合はすぐに医療機関を受診する。
- ・揮発性のものを吸入した場合は、新鮮な空気を吸わせて様子を見る。

クリーム

化粧品の中では最も子どもの誤飲事故が多いものです。通常子どもが誤って食べるくらいの量ではほとんど問題ありませんが、食べた量が多い時は、はき気、嘔吐、下痢などが出ることがあります。



【応急手当】

- ・水分を取らせて様子を見る。
- ・大量に食べた場合や、症状がみられる場合は医療機関を受診する。

ボタン型電池

飲み込んだ電池は食道に詰まらなければ、ほとんどの場合、便と一緒に出てきます。しかし、一箇所に長時間とどまると、放電により胃や腸の組織が腐食します。又、電池が消化管内で壊れると、アルカリなどが漏れ出します。



【応急手当】

- ・電池の種類を確かめる。飲んだり、鼻や耳に入れた場合、すぐ医療機関を受診する。受診時に電池の種類を伝え、同じ種類の電池があれば持参する。

ナフタリン・しょうのう

防虫剤は成分によって毒性や症状が全く異なるので、外袋などで確認しましょう。ナフタリンやしょうのうの毒性は強いです。

【応急手当】

- ・なめただけなら、水を飲ませ（牛乳は不可）様子を見る。
- ・かけら程度でも食べている場合はすぐ医療機関を受診する。

